

相模中学校だより 7月号

令和2年7月7日（たなばた） 発行：校長 金子憲勝



6月1日から学校が再開されて、1か月が過ぎました。6月は、1日から12日までは分散登校で、その後一斉登校に移行し、部活動も始まりました。一年生の部活動の入部届の提出も終わり、概ね通常の生活に戻りつつあります。ただ、もちろん新型コロナウイルス感染症対策は引き続いて行っており、生徒たちは「新しい相模中様式」に大分慣れてきたようです。また、6月26日に配付した校長室だよりに載せたとおり、生徒たちは落ち着いた態度で学校生活を送っています。私はこの1か月間で生徒たちの良さを沢山発見することができ、大変嬉しいです。今回の相模中学校だよりに、生徒会長の清水沙紋さんの言葉を紹介します。

新型コロナウイルス感染症により、2カ月遅れでの学校生活が始まりました。この1年は、引き続き新型コロナウイルス感染症による影響が続くと言われていています。かつてない厳しい状況の中で長いお休みをただ失った時間にしないために今、自分たちに何ができるのかを考え、協力し合ってこの時期を乗り越えていければと思います。この先、さまざまな行事が続きますが、「新しい相模中様式」を守り、よい思い出を作っていきます。

6月の学校の様子を以下に紹介します。（カラー版は学校ホームページに掲載していますので、よろしければご覧ください。）



上の写真は、左から学校図書館内の本の陳列の様子、本を読んでいる生徒と本を借りている生徒の様子です。本を貸し出す場所には、飛沫感染を防止するためにシートをはってあります。学校図書館司書さんから、「相模中生は、本を沢山借りに来ってくれるのでやりがいがあります。」というコメントをいただきました。



上の段の左の写真から新しいALT（外国語指導助手）の先生による英語の授業、ミシンを使ってのマスク作り（家庭）、顕微鏡の使い方（理科）、PCを使っての自己紹介カードの作成（技術）をしている様子です。下の段は、同じく左の写真から「密を避ける」ために広がって体操をしている体育の授業、次の2枚は生徒が自分の考えを黒板に書いている様子（数学と英語）、最後の写真は情報機器を活用した授業の様子です。この情報機器を活用した授業は多くの教科で行っていて、生徒たちは真剣に先生の説明を聞いていました。次回の相模中学校だよりでは、部活動の市内大会の様子を掲載したいと思っています。